

目次

はじめに	1
一 朝鮮に出自を持つ鳥取町人	4
「鎖国」以前の日本／海老屋の松／竹野屋が横手／柳御蔵の柳	
二 米子の大谷・村川家の竹島（鬱陵島）渡海	12
従来を通説／「竹島渡海免許」の年代／「竹島渡海免許」の背景／ 鳥取藩の保護と支援／松島（竹島）への渡海	
三 竹島（鬱陵島）渡海と朝鮮への漂着	21
竹島（鬱陵島）渡海の実態／二つの漂流／竹島（鬱陵島）に渡った人々 ／鳥取藩領から朝鮮への漂着	
四 元禄竹島一件（一） 一六九三年	28
元禄竹島一件とは／一六九二（元禄五）年の渡海／一六九三（元禄六） 年の渡海／安龍福と朴於屯／幕府と対馬藩の対応／竹島（鬱陵島）渡海 禁止の決定	
五 元禄竹島一件（二） 一六九六年	38
安龍福二度目の来日／鳥取での安龍福／鳥取藩の対応の理由／安龍福の 来航目的／帰国後の安龍福／「元禄竹島一件」と竹島問題	
六 鳥取藩と朝鮮通信使	49
江戸日本の誠信外交／鳥取藩の道中人馬役／一七六四（明和元）年の人 馬役／使者小川利兵衛の苦勞／朝鮮国王へ贈る刀を打った鳥取の刀工／ 通信使を見た百姓・町人	
七 朝鮮からの漂流民（一） 一七六七年、汗入郡上万村	61
鳥取藩領への漂流・漂着／上万村への漂着／四人は慶尚道長鬐出身の漁 民／上万村での漂流民／対馬藩からの情報と幕府への届け出／漂流民、 鳥取城下へ／漂流民、長崎へ	
八 朝鮮からの漂流民（二） 一八一九年、八橋郡赤崎沖	70
友好交流の象徴／二人の漂流民／漂着から帰国までの経緯／交流を示 すもの	
九 朝鮮からの漂流民（三） 一八三八年、岩井郡網代村	79
慶尚道蔚山の船、網代に漂着／その後の漂流民／網代村善四郎／ 一八六二（文久二）年河村郡宇谷村へ漂着した異国船	
おわりに — 朝鮮へのまなざし —	88

主な参考文献／引用史料出典／協力者・写真提供者
あきがき